

国土交通省生産性革命本部（第6回会合） 議事概要

1. 日程：平成29年8月31日（木） 15：00～15：50
2. 場所：合同庁舎3号館 幹部会議室
3. 出席者：石井国土交通大臣、牧野国土交通副大臣、秋本国土交通大臣政務官、梁国土交通大臣政務官、高橋国土交通大臣政務官、事務次官、技監、国土交通審議官、総括審議官、技術総括審議官、建設流通審議官、物流審議官、危機管理・運輸安全政策審議官、サイバーセキュリティ・情報化審議官、大臣官房技術調査課長、総括監察官、官庁営繕部長、総合政策局長、公共交通政策部長、国土政策局長、土地・建設産業局長、都市局長、水管理・国土保全局長、水資源部長、道路局長、住宅局長、大臣官房技術審議官（鉄道）、自動車局長、海事局長、港湾局長、航空局長、北海道局長、政策統括官、国際統括官、観光庁長官、気象庁長官、運輸安全委員会事務局長、海上保安庁長官、国土地理院長
4. 議事：
 - ・「生産性革命プロジェクト20」の進捗状況について
 - ・「国土交通フォーカス」について
5. 議事概要
 - 各プロジェクトの進捗状況について、道路局、港湾局、都市局、土地・建設産業局、総合政策局、水管理・国土保全局、航空局、大臣官房技術調査課、住宅局、海事局、観光庁、鉄道局、自動車局、気象庁より、資料2に沿って説明。
 - 「国土交通フォーカス」について、総合政策局長より、資料3に沿って説明。
 - 本部長である石井国土交通大臣より、以下のとおり発言（石井大臣）

本日は、生産性革命の20プロジェクトの現状をご報告いたしました。前回の3月の本部開催時と比べ着実に進捗している様子が分かり、大変心強く感じているところであります。本日、国土交通省の平成30年度予算概算要求を財務大臣に提出したところですが、プロジェクトの推進に必要な予算の確保に向けてしっかりと対応していただくようお願いします。

また、由木総合政策局長より、前回の私の発言を受けまして、「国土交通フォーカス」を作成するとの報告を頂きました。

こうした取組を通じて、「小さなインプットでできるだけ大きなアウトプットを生み出す」という工夫の重要性を、組織として血肉化していくとともに、国土交通省の施策に対する各方面の理解を促進するため、効果的な広報という観点にも心配りをお願いしたいと思います。

最後に、私から中堅・若手職員の皆さんを中核とする新たな政策議論の場の立ち上げについて、指示をいたしたいと思います。

我が国は現在、世界に類を見ない超高齢化・人口減少時代を迎え、戦後日本の歩みは大きな転換点に立っております。折しも、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、官民挙げて準備に取り組んでいるところですが、国民の生活に密着する幅広い行政分野を担う国土交通省として、2020年以降の日本社会の姿についても展望を探る必要があると考えています。

具体的に申し上げますと、中堅・若手職員の皆さんに力を発揮していただき、彼らが国土交通省の中核を担っているであろう2030年頃のあるべき日本社会を構想し、それに向けた中長期的な国土交通行政のあり方について議論を行っていただきたいと思っております。地方の実情を的確に把握することを含めまして、様々な外部の有識者の方々とも積極的に意見交換しながら、多角的な議論を通じまして、課題の共有にとどまらず、その解決策も含めて整理し、提言としてまとめていただきたいと思っております。

つきましては、具体的にどのように議論を進めるか、事務的に検討をお願いします。また、上司やここにいる幹部の皆さんにおかれては、中堅・若手職員がこのような取組を行うことについて十分に配慮していただくよう、あわせてお願いいたします。

若い職員から素晴らしい提言を聞くことを楽しみにしているところでございます。以上であります。

以上